

プランスコロンの の冒険

by

ふたりでひとりの
Bianco

そのとき世界は、ほんのすこしだけ輝いて見えた。
なるほど、僕らの理由は退屈なんかじゃないんだ。

これはふたりの作家によるコラボレーション。

設定もそこそこにはじめた物語がどんな具合にいきますか。乞うご期待。

現在進行形だから作者同士の連絡帳としてBackRoomという章つくりました。

そこで、たびたび変更される？

コンセプトやキャラ設定、世界観などを報告していきたいと思います。

読んでて、あれ？これなんだっけ？

これって変じゃね？

なんて疑問があったら、BackRoomを覗いてみてください。

なにか、根本的な変更のお知らせがあるかもしれません。(マジ)

てか、バシバシコメントください。

それにあわせて変更も辞さない覚悟であります！

あらすじ

あらすじ

人ではない何者かが、人間界とは異なる空間から人間たちの生活を覗き込んでいた。
そのうちの「ブラン」と「コロン」。
彼らはひょんなきっかけで異空間から人間界にやってくることに。
そして、とある目的で、人間のカップルの精神にそれぞれが入り込んでしまったらしい。

一方、そんなブランとコロンのことを、「悪い夢」程度にしか思っていなかった結花と周平だったが、しだいに自分たちの身に起きている「変化」に気づいていく。

いったい「ブランとコロン」とは、マボロシなのか？
彼らの「目的」とは？

知りたい過去と、知りたくない過去
望まない未来と、希望の未来

それぞれの想いが交錯する物語。

Introduction

どこか遠い遠い広い白い場所。

そこには色も香りも音もなく、ときどき点滅する光だけがあった。

かつてはたくさんの光に満ちていたその世界も、ひとつ減りふたつ減り、ついには最後のふたつきりになってしまった。

それが、ブランとコロン。

もちろんその世界では「名前」など意味がなかったのだから、もともとは名前などなかった。その世界をぬけるときに何者かに付けられたはずではあるが、当人達は気がついてはいないようだ。

かねてから、人間界をのぞき見することを楽しみにしていたブランとコロン。

ふたりはとても仲がよかったものの、どうしても理解できないモノがあった、人間の愛する気持だ、、、

もっとも理解しがたいのにはそれなりに理由があった。彼らには親や兄弟というものはなく、個々が単一の存在だった。そして、彼らには属性がある。

人間で言うなら、男と女というものだろうが、彼らの属性というのとは分かりやすく言うとプラス属性とマイナス属性だ。

おそらくは本能的に知っていたことだが、相反する属性同士が接触することは消滅、すなわち死を意味した。

そんなとき見つけた人間のカップルになんとか興味を持って、ふたりを観察するのを楽しみにしていた。

そんなある日のこと、そのことは起こった。

一閃の煌めきと共に、ブランとコロンの姿はその世界から消えてしまった。

もはやその世界には点滅する光はなくなってしまった。

いったい彼らはどこに行ってしまったのだろうか？

夢かうつつか（ブランの場合）

ズギュー～＝＝ンン！

グワ＝～ン

ダッダ！

ギガ ガガ グギガグダダダダ

ダン！

ものすごい音と光との嵐がやむと、それまで堅く閉じていた目をやっこのことで見開いた。

見慣れぬ景色、、、

軽くめまいを覚えつつ辺りを見回す。

見慣れぬ街、、、

見慣れぬ人々、、、

「ああ、そうかここか、、、

なあ？コロン？」

あ、いや、う、、、

あれ？なんだ？

なんだっけ？

僕の名は、、、ブラン、コロンとトモニ、、、を、探しに、、、キタ、、、。

何を？どこで？

それよりもコロンはどこだ??

コロン？

????

??

???

?

??????????

???

？
????????????????
????????????
?????
??

「？」が頭脳を支配する中、ナニカを握りしめていることに気がついた。

「これは？」

手のひらにのるサイズの、通信機だろうか？
見覚えこそはないものの、使い方は分かる気がする。

すると

ブルルルルル～
ブルルルルルル～
振動音と呼出音に小さな画面を覗き込む、、、

コロン、、、という名前が！
コロンからの連絡だ！

とっさにそう思うや、なにをどうしたのか画面をスライドしたあとその装置を耳にあててみた。

「もしもし、、、」

「もしもし、、、コロンかい？僕は、、、僕は、、、ブランだ」

「と、まあここで目が覚めたんだ。
な、変だろ？」

話終わってもまだ、部屋の壁のカレンダーをぼんやり見つめながら、夢の内容を思い出していた。

「え、ほんと？私も見たわ。その夢
私は、、、コロン」

電話の向こう側で驚くべき返答があってとっさに我に帰った。

「え！ほんとうかい？」

嘘か真か（コロンの場合）

私は、、あのとき、、、そう

ひどい頭痛と立ちくらみで、目の前が真っ暗になったかと思うと、ぼんやりと流れるテールランプをみていた。

ふいに誰かに背後から追い立てられるような気配を感じて周りに目をやった。

大切な何か、思い出せないけれど、とても大切な何かが足りない気がして

「ブラン、、、ブランに、連絡、、、しなくちゃ、、、」

と、ケータイを手にとった。

トゥルルルルル

トゥルルルルル

ガチャ

「私はコロン、、、こ、、、わ、、、、、、あ、、、きゃ、、、??」

なぜか言葉が出てこなかった。

何かを伝えようとして、しきりに口を動かしたけれど。

焦れば焦るほど行き交う雑踏の音だけが次第に大きくなって、自分の声は周囲から覆い隠されていった、、、、。

どこか見知らぬ場所にひとりぼっちで置いて行かれた気がして。

クラ〜=ツツツ

クラららら〜

フララァ〜〜

また眼の前を暗いカーテンが襲ってくると、、、

頭が、、、、

ズキーz-----=ン!!!!

暗闇に吸い込まれ、落ちていく感覚の中、どこからともなくかすかな振動音が聞こえた。

私は夢中で手を伸ばすと、、、、

あなたからの電話が鳴っていたってわけ。

気がくと私は四角い箱を握りしめてた
昔から持っていたようでもあり、はじめて手にしたようでもある
ふたりをつなぐ唯一のモノ、、、
その箱の中からあなたの声が聞こえてきた。。。。

ケータイの向こう側のあなたの声に、なんだか少し安心した。

今夜は新月。
新しい夜の世界のはじまり。
眠るには早すぎる夜のはじまり。

「あ、ごめん！
なんだか混乱してるんだけど、名前、、、、ってなんだっけ？」

名前をつけよう！僕が僕であるために君が君であるために

「名前だって！ふざけんなよ～
そんなん忘れるなんて、、、
忘れる、、なんて、、、
???
あれ？
え！
なんだなんだ！
なんだっけ？
名前？
???'」

どうやら僕も動転しているようだ。
自分の名前、彼女の名前、、、

！

思い出せないっ！！！！

分かっているのは、夢の中では僕はブランで彼女はコロン。

「気持ち悪いな」
思わず僕は口にしてしまった。

聞こえたよな？きっと。
もちろん、彼女にはなかったけど、なんだか気まずくなって言い直す気にはなれなかった。

「ごめん、僕も思い出せないみたいだ。
なぜだろう？喉元まで出てきているのに、声にならない。
そう。
声にならないんだ。」

くよくよすんなよ、、、だな。

「どうしても思い出せない。
でも心配なんてしなくていいさ。
名前をつけよう。
僕が僕であるために
君が君であるために
ちょうどぴったりと合う名前をふたりでつけるんだ。」

なあに、気に入らなければ変えてしまえばいいのさ。」

「相変わらず冷静ね！冷たすぎるくらい？私の大好きな名無しさん」

いつものように思ったことをすぐ口に出してしまった。

「なら、あなたが私に、私があなたに つけるコトにしましょう。」

なんでも遊び感覚なんだな。ま、時にはそれもいいか。
よし早く名前を決めちまおう！

君の名は・・・

「『夜月 結花』どうだい？綺麗な名前だろ？

君にピッタリだ！

新月の夜だから

モチロン月は見えないんだ目にはね。

でも、大切なモノは目に見えないって言うじゃないか。

そして夜だったからそう名づけたのさ～」

結花の方の理由だって？？？

ったく、女ってヤツは・・・めんどくさいなあ～

はいはい！

「大地や大気やらの力をほんの少しずつ借りて咲く花のように、すべてがひとつに、つながれば
いいな～と思ってね。」

僕は我ながらとっさによくこんな台詞を思いつくよなあ～というくらいのクサイ理由を口にした
。

うん。その甲斐あってか彼女は相当この名前が気に入ったようだ。

声のトーンもさっきと違ってら。

「今度は結花が決める番で～す♪」

うーん。勘弁願いたいよなあ～まったく。だいたい俺は自分のコトを名前で呼ぶ女は嫌いなんだよ！

私と、ちゃんと言えよな！

そう喉まで出かかったけど呑み込んだ。

うん、つまらない言い争いは避けるに限る。

「『星川 周平』ね！

うんキマリ！キマリ！

理由？理由なんて、なんとなくよ。

な・ん・と・な・く！

ね？いいでしょ！。シュウちゃん」

シュ、シュウ？　　ちゃん？

ったく！いいかんげんな！

と言おうとしたとき、腹だか頭だかの奥の方で

　　コーーーーン！

というような音が響いた。

少し不思議に思ったけど、なんだか良い気分を壊されるような気がしてスグ忘れた・・・。

それがこの物語の行く先を決めるキーだなんて夢に思わずにね。

僕は星川周平、彼女は夜月結花。

動きはじめた街の下、べつべつの夜を見上げた。

結花との電話を切った後、僕は単純なことに気がついた。

表札だ。

家の表札を見れば一発で名前がわかるじゃないか！

そう思うや、外に出て表札を見ると少し驚いた。いや、さほど大きく驚かなかったのは、なんとなく予想していたからかもしれない。

『星川周平』

確かに、そう書かれている。

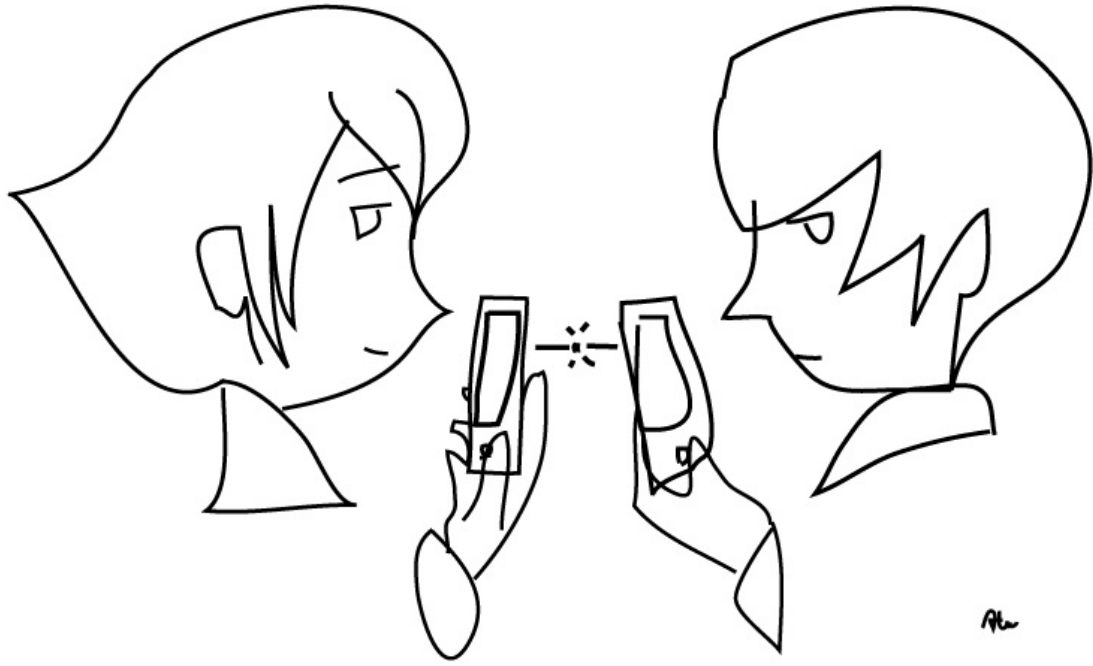
彼女の方もか？電話しようかと、ためらっているとメールが入った。

【シュウちゃん、、、私の名前は「夜月結花」って表札に書いてあったわ、、、思い出したの？それとも覚えていたの？】

どうやら考えることは、そのタイミングまで一緒らしい

【いや、そんなコトはない。決まっていたのか、、、あの瞬間に決まったのか、、、どちらかだ
】

そう返信すると、なんだかやけに眠くなってしまって、知らぬ間に眠ってしまっていた。



(Mon) 朝 周平の場合

とある地方都市のはずれの薄汚れたアパートの一室にて

朝、

目覚まし時計が鳴る直前に目が覚めた。

手馴れた動作でふたつの目覚まし時計を止めると顔を洗い出した。

やっぱ身についた習慣なのかな？

それにしても落ち着かない。

自分で自分のコトが分からないというのに、それほど慌てる気分でもない。

大事なコトを忘れていた気がするが、どうでもいいことのようにも思う。

そしてこんな風に、何事もないかのように日常を始めることができるなんて。

どう考えても変だ。

”でも、それでいい。”

そんな声が聞こえるんだ。

頭の奥のほうでさ。

そして、なぜだか自分を客観的にというより本当に第三者のように、かなり冷静に見ることができるようになっているようだ。

分析によると、この僕は変なところだけ神経質らしい。

さっきの目覚まし時計を2コセットしているのもそうだけど、歯ブラシセットやタオルなんかはキチッと置かれている。

けれど、玄関の靴は脱ぎっぱなしで構わないらしい。

例のブランってヤツもそんな感じかな？なんてつぶやくと

”俺は違うぜ、、、”

って聞こえた気がした。

記憶は曖昧、変な声は聴こえる。

なのに日常の中に、戸惑いもなく僕は滑りだしていった。

トーストをミルクで流し込むと

愛車、といっても自転車だが、に跨って駅まで10分。

ひとときの爽快な時間の始まりだ。

(Mon) 朝 結花の場合

川を見下ろすワンルームマンション

月曜日、いつもの時間に判でついたように目覚めた。

身体はまだまだ眠たそう・・・。

眠る時間が遅いっていうのに何故だろう？

きっと食いしん坊だから 先に腹時計に起こされちゃうんだな♪わたし！

目覚まし時計が鳴る前に起きてしまうものだから

新しく買ったお揃いの目覚まし時計の音は殆ど聞いたコトがない・・・

今頃しゅうちゃんは まだ寝てるんだろうなあ・・・

なんて

いつものようにベッドでゴロゴロしながら

お気に入りのタオルケットの縫い目を親指と人さし指で擦る。

子供の頃からの習慣。

大人になってもやってるなんて知れたら 恥ずかしくて死んじゃうかもね！

軽く口にした「死んじゃう！」という言葉がすこし胸に響いたけど

朝の慌ただしい空気に紛れて、そんなコトはどうでもよくなっていた。

”それでいいんだよ”

ん？テレビの声？

ま、いっか、さあ～お米炊かなきゃ

朝はご飯と決めているんだからね！

さ～て冷蔵庫の中のお肉やっつけちゃうかな！

と、起き上がると

ハッ！！！！

とした・・・

またやっちゃった～裸で寝ちゃった！

しげしげと自分のボディを見つめる。

”へえ、意外と？胸あるじゃん♪”

んっ???また?

これって私だよな・・・???

何か変???

まっ!いいか♪スタイル更によくなりい~♡

「ルンルン気分!」

って、自分で言うのもなんだけど古っ!

気合入れてベッドから元気に飛び出すと

サイドテーブルに置かれたショッキングピンクのキャミを羽織った。

手慣れた動作で準備を終え

『さて!今日はどんなHAPPYが私を待ってるかな♪』

そう思った瞬間に肉体はバツが悪そうに ビクッ! て反応した・・・。

まるで意識とカラダが離れ離れになったみたいな不安感が襲う!

ハートが チクッ! としたようで、

勢いよくカーテンを開けた後

しばらくボ~ッと 窓の外を流れる景色を眺めていた。

昨日とは同じようで違う今日。

毎日毎日細胞は生まれ変わって、この体も数日前とはまったく別のもの・・・

新しいボディー・・・。

そう

新しいドレスに着替えたような、新しいカラダを着て

さあ、街へ

少し嬉しいような、すこし悲しいような気持ちに包まれながら

私の今日をスタート♪

昨日までの自分をリセットして~

曖昧な日常～月曜、動き出す街

(Mon) 朝 周平の場合

ベッドタウンを抜け、学園都市を超え、すっかり混んだ通勤快速の車内にて

ガタンゴトン、ガタンゴトン、ガタガタ
プシュー

もう！いちいち駅に停まりやがって嫌になる。

なんかこうさあ～奇数の駅と偶数の駅と互い違いに停まるとかなんとかできないものかね！

朝の爽快感もすっかり薄れ、ラッシュの電車に嫌気がさしていた。

それでも、この窓側をゲットできたのはラッキーって言えるだろうね。

広告やら、他人の新聞やら見てるとどうにも気が滅入るけど、こうして窓の外を見ていれば少しは気が紛れるってのもんだからね。

ザザッザザッザザッザザッ

電車は橋に差し掛かって音が少しうるさくなった。

今日の水位はどうか？

川の流れをみるのが日課になっていた。

昨日の雨で、まだまだ水位は高く、川は茶色くうねっていた。

結花のやつ、家は目の前が川だったなあ、、、なんてぼんやる思うと
ガンッ っと頭を叩かれたように目の前が一瞬真っ暗になった、、、

なんだったんだ？

やっぱ調子悪いみたいだなあ。

暗闇の中で足掻くようなイメージが湧いた気がしたが、それもこれも自分自身で忘れようと必死になっているようだった。とてもとても息苦しくて手足をばたつかせるイメージ、、、。

ドウルドウルルルル

ドウルドウルルルル

突然携帯のバイブレーション

結花からのメールだ

”起きた？”

だってさ

もう半分ほど朝が終わりかけているっていうのにさ
なんだかいつもママ気取りなんだからね。

そう、いつも、いつも、、、、、、
あれ？昨日って何してたっけ？？？

(Mon) 朝 結花の場合

自転車に乗って家からの30分

私は地下鉄やバスに乗るより歩きや自転車のほうが好き。
風を感じられるからかなあ。

住宅地を抜け大きな公園をぬけていく。
公園の鳩はいつもふてぶてしい感じ。
自転車が来てもよけようもしない。
だから鳩に向かってこう言うの

「どいてえええ～!!!ひいちゃうよ～！」

なんて話を友達にしたら 「1回ひいてみたら？」な～んて言われたけど・・・
さすがによけてくれるよね？

・・・・・・・・

う～ん、やっぱ不安だからやめておこうっと。

なんてこと考えながら公園の第三コーナーを曲がると突然噴水のしぶきがあがってビクッとした
。

!!!!!!

目の前に現れた池に背筋がゾワッ!!!として
思わず急ブレーキ!!!

何だろう？

とても嫌～な気分襲われた・・・

身体に衣服がベターと貼りついた感じで

子供の頃プールで溺れかけた記憶がフラッシュバックみたいに蘇る。

なぜだろう？長い間忘れていた記憶なのに・・・

あれは・・・

あ、いけない遅刻！遅刻！

せいっぱい明るい声を出すと、また全速力で走りだした。

池をふりかえらずに。

そうだ～っと♪後で しゅうちゃんにメールしなきゃ！

夕べ遅くまで話してたから まだ寝てんじゃないかしらぁ～

もう9月。

すっかりと人気（ひとけ）の消えたプールのすみに空気の抜けたビーチボールがゆらゆらと転がっていた。

(Mon) 午後 周平の場合

思いのほか何事も無く、午前中が過ぎた、、、。

でも、なんだかフィルター越しに世界を見ているような感じで、自分が自分じゃないような感覚だった。

体の奥から自分のカラダを操縦しているような感覚、、、。

と、

そんなこと考えている暇はないや！

ある意味、月曜は忙しくて助かった。

余計なことを考えずにすんだから。

昼休みに入ると、買って来たコンビニの弁当を食べながら、自分の携帯電話、、スマートフォンを取り出した。

特別、何をするわけでもなく、電源を入れたり切ったり、ページをめくったりしていた、、、

「やっぱ、変だ、、」

そんな疑問が湧いてきた。

これって本当に僕のモノかな？

一方では確かに自分が買ったという記憶がある。

結花とお揃いで買ったんだから間違いない。

このなんだか分からないヘンテコなキャラクターのシールを貼られたのだから覚えている。

間違いないんだけど、手に持った瞬間、なんだか違和感があるんだ。

そうだ、さっきパソコンをいじった時も何か違和感があったけど、会社のパソコンは新しくしたばかりだから、そんなもんかな～なんて思ってたんだ。

とりあえず結花にメールでもするか、、、

、、、未読メール 1件、、、

あれ？いつの間にメールが来てたんだ？

え！

差出人は、、、BLAN、、、

ブランだって!?

結花の悪ふざけか?と思いながらメールアイコンをクリックした。

(Mon) 午後 結花の場合

職場につくと、勢いよくドアを開けて

オハヨ～ございま～す!

毎度のコトながら、同僚も後輩も店長もビックリして振り返る。
ロッカールームに飛び込んで、ささっと服を脱ぎ捨てて制服へ。

朝はこのテンションじゃないと調子が出ないわ!

なんてつぶやいたけど・・・

なんだか今朝は調子が悪いのかな?

起きた時は気分がよかったのに、なんだか身体が重い気がする。

まあ～月曜日だからね!

そんなコト気にしな～い♪いつものようにカウンターに立った

いらっしゃいませ。おはようございます。

スマイル!でテキパキ?接客!

「クーポンとか、なんだか色々ありすぎて、ややこしいね!!!」
って、小声で隣から囁かれたから、軽くウインク!

あっ!という間に時間が過ぎた。

さて、交代して休憩かな・・・。

そう思った瞬間なんだか、頭が クラッ!とした。

ヤバ！お腹空き過ぎかな！

そう言ってロツツカールームに戻ると携帯がピカピカしてる！

ふふっ♪周ちゃんかなあ〜♡

て、思い切り嬉しそうな顔になるのを自分でも感じながら携帯を手にとった。

んっ？？？CORONN？？？は〜あ？

誰？？？知らない！！

開くのやめようかなあ〜て、頭では思ったけど、無意識に指が・・・。

ブランコロンの裏庭へようこそ

ここから先は本編とは関係ありません。

ネタバレもあると思うので、気になる方は読まないようにね！

ブランコロンの世界

●ひとまずの概要

謎の生命体「ブラン」と「コロン」の冒険。

世界観A

ふたりがいる世界は、この地球に似ているようで何か少し違う。

そんな惑星で生活するふたりの冒険。

世界観B

別の星、もしくは異次元から、この地球に迷い込んだふたりの発見の旅。

世界観C (★オススメ★)

他の世界（異星、または別次元）から地球に「ナニカ」を探しにやってきたふたり組。

到着時のトラブルでバラバラの場所に到着。

しかも、なにを探しに来たのかも忘れてしまったらしい。

ちょっとドジなふたり組「ブラン」と「コロン」がくり広げるちいさな冒険譚。

はたして、ふたりはその「ナニカ」を見つけられるのか？

また、ふたりは無事もとの世界へと帰ることができるのか？

なお、ふたりの姿はニンゲンそのものです。

本当に異世界の民なのかは当人しかわかりません。なので、他人に話せばたちまち病気扱いかも？

ブランコロンのキャラ設定

両方わがまま、自由人てか(笑)

ブラン♂

性格・・・☆優しく穏やか

実は激しい面を隠している。

☆だれにでも構う

見かけによらずさみしん坊。

☆モテル

黙っててもいける感じ?(笑)

☆歌好き

歌うのも創るのも

☆秘密主義

実はスグばれる・・・のか?

☆りくつつぱい

話だと熱くなるタイプ。理由をつけて行動しないと何となく嫌。

しかし、理由は後付けのことの方が多い。

☆言葉を操れる

神のような言葉を突然つぶやいたりする

その言葉で生ある者達は先に進む勇気、希望を与えられる～

コロン♀

性格・・・☆強いバイタリティの持ち主

内面の弱さは決して見せない

☆八方美人

誰に対しても平等に接するので勘違いされることも!?

☆モテル

すぐに相手をその気にさせてしまう魔力有り?

☆創造好き

本人は気がついていない能力を秘めている!?

☆秘密主義

すくなくともバレていないと本人は思っている

☆実践主義

あれこれ考える前にまず行動「習うより慣れろ！」が信条

☆印象と異なり？鋭い感性の持ち主

☆実は・・・

ブランのコトがとても気になるう～♪

多分？今は大好き！キョウゲンザイデハセカイデイチバンスキ。

世界って果てしなく広いけどお～（笑）

ブラコロ通信

↓----- (ブラン)

あらすじを考えないとすすめずらいね、やっぱ物語は。

どうするか、、、

まずは、章を適当に作ってはみたが、、、、

☆そうね～

BLANCOの詩と違って自由なハートで
お互いのフレーズに書きカキして仕上がるとは
思えないわぁ～←んっ？まともな対応(笑)

そもそも

何の計画？もなく始めたからねえ～(笑)

ちゃんと文は繋げたけど・・・

昨日言われたように会話ばかりじゃ～話が進まないのは事実ね♪

さて・・・。

どうしましょうか？てコトで・・・

当たり障りない会話だけUPしてみたぁ～(笑)(^_^)-☆きゃぴっ♪

後は、タイミング合わせて冒険のコトに集中して打ち合わせ！

か、(他の話にスグ反れるしい・・・)

今みたく、出来る時にゆる～く決めるかだけど・・・

多分性格的に、ゆる～く してたら、やる気なくなりそ！お互いに～

どだ???(^◇^) 9月10日に記

↓----- (ブラン)

▼人間名案

ブラン=寺島ハルト コロン=藤崎レイラ

▼人間名案2

ブラン=星川周平 コロン=月野東子

どっちの路線かな？ ←夜月結花 (^◇^)

月島麻耶

月島瑠奈

空月瑠奈

空月綾

空月蘭

夜月瑠璃

月島結花

↓----- (ブラン)

人間名の件は完全ファンタジーなら不要だと思います。

ブランとコロンがあればこれ見た話をあだこうだ言っていただけな感じならね。

でもちょい複雑にするならばいると思う。

要するにブランとコロンは「中の人」ってこと。

それが

人間の体の中に入り込んだ何者かなのか？

人間の姿をした何者かなのか？

それぞれの思い込み（妄想）なのか？

は、今のところわからないけどね

▼人間名案

ブラン=寺島ハルト コロン=藤崎レイラ

みたいなね、候補があればよろしく～

☆月野うさぎみたいな？

名字って必要なのかなあ～？？？

苗字まで考えておいたほうが何かといいと思います。

名前と呼ぶにしてもね。

▼人間名案2

ブラン=星川周平 コロン=月野東子

あたりじゃだめかな？

☆何か・・・名字は別として名前古臭くない？（笑）
タクトとかヨシアツとか創とか・・・
ええ～い！何かお互が相手につければいいんじゃない？
元カノとかの名前以外にしてねえ～（笑）

古い発想はしかたないだろ？
じゃなかった、たしかにわざわざ古臭くしてみたんだけどね。
んじゃ第三弾！
俺はタクトでいいかな。
空月タクト

んで コロン案

月野カレン
夜月蘭子
夜月ルナ
宇崎瑠奈
羽咲ルナ
あたりはど？

☆私は月が好きだから夜月ルナにするね（^◇^）
可愛い名前ありがとう

何かね・・・（；一_一）書きカキしてたら～タクト&ルナより
最初の提案みたいな日本的な？古臭い名前の方が
いいように思えてきた～
名前変えよう！！
どよ？？？んっ？

↓-----（ブラン）

と、ということで、この物語は国際スパイが暗躍するスリルサスペンスに決定しました！
嘘です。

☆アサシンとかレオンみたいな？？？
何か違うよねえ～

↓----- (ブラン)

キャラ設定も追加、、、しかし、あんなんでもいいのかな？

ま、いっか なのかな？

☆あれは・・・(; _ _)ブランとコロンの当てはめなくてもいいかと思います

↓----- (ブラン)

ここはふたりの連絡のためにつくってみました。

ドコカを更新したら、ここに書き込むようにして、ふたりのやりとりに漏れがないようにしてみましよう。

だから文章はブログのように、上に追加して行ってね！

将来公開しても、しなくてもいいと思います。

まずは基本事項の確認です。

・タイトルはこれ（「ブランコロンの冒険」）でいいか？

←作家名

のトコ変更♪即対応39

・暫定的に、カテゴリーを絵本・童話としているがこれでいいか？

←いや～激しい

恋愛もので～！USO(笑)

・表紙画像を作ってみたがもっとファンタジックでないモノの方がよいか？ ←絵のセンス好き

♪絵の他も～

↑について意見ををお願いします。 はい答えました(^◇^)

あ、あと「ブランコロンの世界」に世界観設定Cを追加。これがイチオシですがどうですか？

↑

押しに弱いんで！とりあえず押されておきます(^◇^)

以上、キャラ設定は、、、俺がそっちの案を書くべきなのかな????

↑

主導権はお任せ♪と言いいながら口を目いっぱいさむ私……。あら！可愛い(爆！)

はいは～い(^◇^)

めんどくさいんで～別手段で打ち合わせ！

ほい！一気に解決！

って何か中身ある話・・・したっけ？？？（笑）

何となくしたようなああ～

話進めましょう！

てか書きカキしま～すう♪

結局なんか決まらないね～

って原因は もしかして私かな？？

まぢに考えてるんですけど・・・これでも(^_-)-☆へへっ♪

きやあああああああつああ～！！！！

読んでないし～

て、私もここ見るの度々できてないけど～(笑)

上にも書きカキしてるYO～

読んで知ッ！

タクトはやめない？？

ブランと同じカタカナ表記だし・・・

なんかさあ～実は何かなのよお～←何が！！

ほな！ここはお互いのリア名で！

てのはアカンからあ～

このページでの打ち合わせムズイ(;_ _)

続きは別方法で～(^◇^)

ほな～♪て月初めに出来るのか？？

忙しさがわかんない・・・

よくツラツラ～と名前出てくるよねえ～

スゴ！！

多分・・・(;_ _)

お互いに気が向いた時しか

ここ覗かないし・・・

しかも確かにこの会話って他の人見てるから
書くのも言葉選んでるんで～
意味あるのかしらあ～(° o °)(笑)

まっ！！！！いいか～の土曜日だい♪ (^◇^)
昼までキツ眠ってるから、
先ずはココに書きカキしといたよ～♪
そろそろ本編をUPしたい (^◇^) どよ???
て・・・
多分ココ見れないから別手段で連絡チョッ♪
て、神に誓ってココ読んでないと思う・・・(笑)

ブランコロンの冒険

<http://p.booklog.jp/book/33025>

著者 : blanco

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/blanco/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/33025>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/33025>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.